

平成23年度

取扱注意

# 授業改善推進プラン【小学校】

- ①平成23年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②平成23年度第2学年・第3学年・第4学年・第5学年・第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③現第6学年平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析[全校で実施](様式3)
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科

東京都北区立第三岩淵小学校

平成23年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	期待正答率を上回り、基礎・基本の定着度は高い。特に言語事項については正答率が高い。しかし、読む能力は区の平均を下回る傾向が見られる。
社会	期待正答率を上回り、基礎・基本が定着度は高い。しかし、資料を活用することにやや苦手な面が見られ、区の平均より下回る傾向が見られる。
算数	期待正答率を上回り、基礎・基本の定着度は高い。また、全体的に区の平均も上回っている。ただ、定着度に個人差が見られる。
理科	学年による違いはあるが、全体的に基礎・基本は定着している。また、他の教科に比べ個人差も小さい。しかし、活用問題に苦手になっている面が見られる。

本校の教育目標
○よく考えてやりぬく子ども
○仲よく仕事する子ども
○みんなのためになる子ども
○いつも明るいじょうぶな子ども

本校が児童に育成したい力
・主体的な学習や体験的な活動を通して、児童が感じたことを言語で表現したり知識を活用したりしながら、自ら学び・考える力、柔軟な思考力や豊かな想像力・表現力を育成する。

学力向上にかかわる経営方針
・やる気がわき、わかりやすい授業
・PDCAを行い、児童の側に立った授業
・改善プランを基盤にした授業改善
・体験活動と多彩な学習活動の工夫
・個に応じた指導の充実
・少人数指導を活用した指導法の工夫

校内における学力向上推進体制
学力向上推進委員会(校長・副校長・主幹教諭・研究推進委員長・学年主任)

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・児童の生活や体験に結びついた実感もてる学びの展開	・小中一貫教育プログラムを活用し、系統性のある授業計画の作成	・授業研究を中心とした校内研究、校内研修の実施	・「授業改善プラン」を評価の中心に据えて、評価と指導の一体化を進める。	・土曜授業を全て学校公開とし、家庭や地域の学校教育への理解を高める。
・児童のなぜを生かした課題解決型学習の充実	・授業時数の十分な確保	・全員が研究授業を行い、各自の「授業力」を高める。	・時間毎や単元毎の振り返りをカード等を通し綿密に行い、個に応じた指導に生かす。	・地域の人材を生かし、学習活動を多彩なものとする。
・小テスト等を活用した、学習の理解度や定着度の一層の向上	・児童の姿に基づいた計画、実践し、反省評価し、行動(改善計画実践)	・日常的に互いの授業を参観しOJT研修を推進する。		

平成23年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立第三岩淵小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
期待値に対して、物語の読み取り以外は上回っている。区の平均と比較すると、漢字を書くことは上回っているが、その他は下回る結果となっている。特に、助詞の使い方、物語の読み取り、文章を書くことに差がみられる。	すべての観点で期待値は上回っているものの、区の平均を下回っている。特に、読む能力・書く能力は、他の観点と比較して差が大きい。文章を読み取ることや、自分の考えを順序良く書くことで、個人差が大きい。	言語事項の中では、漢字の読み書きは定着している。言葉の決まりに関しては定着していない児童が見られる。また、読むことでは、物語文の時間や事柄の順序を考えながら読み取ることが低くなっている。書くことでは、出題の意図に沿って書くことを苦手としている。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9つの内容すべてで期待正答率を上回っている。しかし、区の平均と比較すると5つの内容が下回る結果となった。特にたし算・ひき算の文章問題では、8.3ポイントの下回っている。問題を正しく読み取ることが苦手している児童が多いことが考えられる。	どの観点も、期待正答率を上回るかほぼ同じであるが、区の平均と比較するとどの観点も下回っている。特に、数学的な考え方については、大幅に下回っている。また、正答率は個人差が激しい結果になっている。また、活用力・表現力を高めていく必要がある。	数学的な考え方の中でも、数式から問題文を考えたり、表現したりすることを苦手とする児童が見られる。表現・処理では集合数と順序数の違いを理解している児童が少ないと言える。問題の意図を明らかにして、解決する力を伸ばしていくことが課題といえる。

平成23年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区の平均点より2.1点下回っている。話の聞き取りが5.2点、ことばの学習が7.3点平均点より下回っていた。また、物語文の読み取りも8点下回っていた。一方、漢字の書きは区の平均点より7点以上大きく上回っていた。作文・説明文の読み取りは平均点とほぼ一緒であった。	期待正答率と比較すると、5つの観点でほぼ上回っている。特に言語についての知識・理解・技能については、4.4点上回っている。一方、区の平均正答率と比較すると、話す・聞く能力と読む能力で4点近く開きがあり、他の観点でも2~3点下回っていた。	「物語を読み取る」問題の正答率が低かったことから、「読む能力」が低下していると考えられる。この内容・観点については、個人差が大きく結果として表れた。今後の課題として、読解文の内容を深く読み取る作業が必要であると感じる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区の平均点より0.3点下回っていた。各内容において平均点とほとんど差がないためである。一方、直方体や立方体を扱った箱の形は3点以上下回っていた。これは平均点より低い児童が6割いたためである。また、10000までの数も約2点低かったが、8割以上が平均点を上回っていた。	「関心・意欲・態度」の項目が区の平均より0.9点下回っていたが、これは個人差で差があったためであり、7割以上が区の平均点より上回っている。このことは、どの観点においても当てはまることであり、個別指導を今後は重点的に行う必要があることを表している。	個人差はあるにしても、全体的に平均点とほぼ変わらない事が分かる。基本的事項はほぼ習得できていると言える。一方、文章問題は平均と同様に全体的に6割の正答率であった。しかし、問題作りは4分の1の正答率であることから、今後の指導法に生かしていく。

平成23年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区平均を2点下回っている。読み取りの正答率は、物語文、説明文ともに区平均を下回っている。聞く話すはよくできていて、特に互いの考えを比べながら話し合う問題は、区平均を上回っている。漢字は読めるが、書くことが苦手な児童が多い。	関心・意欲・態度と、話す・聞くは、区平均を上回っている。読む能力が区平均を下回っているが、個人差に因る処が大きい。言語事項についての知識・理解・技能は、問題によって、正答率の差が大きい。	全体的な正答率は、区平均とほぼ同じくらいである。読む能力の中では、物語分野を苦手とする児童が多く、正答率が区平均を下回っている。意欲的に話をしようとする児童は多い。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区の平均正答率より4.9点下回っている。町の地図の見方は正答率が高いが、工場の仕事を人々については下回った。お店や工場で働く人々の努力や工夫について十分に理解できていない。	全体的な正答率は、区平均をやや下回っている。関心・意欲は高いが、知識の習得、理解に結びついていない。また関心・意欲は個人の差が大きく、その差がそのまま成績に出ている。	昨年度と比較しても、正答率は下がり気味である。日常生活から調べた学習や、商店街など郊外に出て学習した内容には関心・意欲が高く、知識・理解としても高い結果が出た。しかし、正答率が6割を切っている児童は12名と4教科の中で一番多かった。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
期待正答率を4.2点上回っているが、区平均を1.7点下回っている。特に、たし算とひき算では、6点近く下回っている。分数と小数の計算、グラフの理解はそれぞれ1点近く上回っている。計算問題は繰り返し行い、定着させることが必要である。	四つの観点全てが期待正答率を上回っている。ただ、関心・意欲・態度以外の観点が、区の平均正答率にはあと平均2点ほど及ばなかった。	8割から9割とれている児童が、半数くらいで、ばらつきも他教科に比べて少ない。円と球・三角形に関する問題の正答率が期待正答率、区平均からも大きく下回っている。4年次も図形や直線の平行、垂直の理解が難しい児童が多く見られたので、継続的に学習することが必要である。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
こん虫の育ち方、電気の通り道、太陽の動き、光の性質、物と重さについては、期待正答率、区平均ともに大きく上回っている。反対に、植物の育ち方、こん虫のからだのつくり、じしゃくのはたらきについては下回っていた。	科学的な思考については期待正答率、区平均を上回っている。それ以外の領域はそれぞれ下回っているが2点以内に収まっている。	正答率が7割以上の児童が24名と多く、逆に6割以下の児童は8名と4教科の中で一番少なかった。学習して時間がたつと、忘れてしまうこともあるので、既習事項を使った学習を通して復習させたり、日常生活の中で活用させたりしていきたい。

平成23年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「話の内容を聞き取る」「物語・説明文の内容を読み取る」「言葉の学習」は、区の平均を上回っている。「漢字の読み・書き」「話し合う」「作文」は、区の平均を少し下回っている。また、選択問題の正答率は高く、記述問題の正答率は低い傾向が見られる。	5観点全て期待正答率を上回っている。「読む能力」「言語についての知識・理解」は、区の平均も上回っている。「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」は、若干ではあるが区の平均を下回っている。	国語の基礎の定着度は、期待正答率を上回り、区の平均と同じである。活用は、期待正答率、区の平均とも上回っている。全体として区の平均を大きく上回る児童が2/3いる。一方、下回っている児童が1/3おり、中間層が少なく、二極化の傾向が見られる。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
期待正答率より上回っているのは、「安全な暮らし」「ごみ」「水」「伝統工業」の4単元で、「水」については区の平均より上回っている。「音の暮らし」「地図帳の使い方」「地形図の見方」については、期待正答率、区の平均ともに下回っている。	「社会的な思考・判断」「知識・理解」は、期待正答率を上回り、「関心・意欲・態度」「資料活用の技能・表現」は期待正答率を下回っている。また、4観点とも区の平均を下回っている。	社会の基礎の定着度は、期待正答率を上回り、区の平均を少し下回っていた。活用は、期待正答率、区の平均とも下回り、中でも資料を読み取り、記述で解答する表現力を苦手としている。また、全体の2/3の児童の基礎は定着している。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容において、期待正答率を上回っている。特に「折れ線グラフ」「計算のきまり」の数量関係は、区の平均も10点近く上回っている。一方、「わり算」「小数」「分数」の数と計算については、区の平均とほぼ同じである。	4観点とも期待正答率を上回っている。「数学的な考え方」「知識・理解」については、区の平均も上回っている。「関心・意欲・態度」「表現・処理」については、区の平均とほぼ同じである。	算数の基礎、活用とも期待正答率を上回っている。基礎は区の平均とほぼ同じで、活用は区の平均を少し下回っていた。活用の中で資料を読み取り、理由を付けて説明する表現については区の平均を5点上回っていた。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「生物とその環境」「地球と宇宙」については、期待正答率、区の平均ともに上回っていた。「物質とエネルギー」については、期待正答率、区の平均ともに下回っていた。内容によって定着度に差があった。	「観察・実験の技能・表現」「知識・理解」は期待正答率を上回っていた。「技能・表現」については、区の平均も上回っていた。ただ、他の3観点については区の平均を下回っていた。	理科の基礎の定着度は、期待正答率を上回っているが、区の平均は下回っている。活用については、期待正答率、区の平均ともに下回っている。全体の1/2の児童が区の平均を大きく上回る一方、1/3の児童が下回り、二極化の傾向が見られる。

平成23年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
内容の中でも、漢字の読みは6.4%、書きは5.6%、説明文の読み取りは6.3%区の平均を上回っており基礎的な力は身につけていると分かる。話し合いの内容の聞き取りが5%下回っていることから、聞き取る力を伸ばす授業への改善が必要と考えられる。	全体的に区平均よりも得点が下回っていた。特に話す・聞く能力は5%区平均を下回っている。また、書く能力が13%下回っていた。一方、読む能力と言語についての知識・理解は区平均を約3%上回っていることも踏まえ、問題を読み取り理解する力は身につけているものと考えられる。	漢字の書き、読みや言語についての知識・理解が区平均を上回っていることから、基礎的な力は身につけており、文章を読み取ることもできている。しかし、読み取ったことに対する自分の考えをまとめたり、聞き取ったことを要約することがやや苦手であると分析される。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
日本の水産業、工業地域、わたしたちの国土と気候は校内平均が区平均を上回った。特に日本の水産業は7.5%上回っていた。しかしそれ以外の5項目は区平均を下回っており、中でも日本の食料生産は5.5%、日本の貿易は4.7%下回っていた。	全体的に区平均より得点が上回っていた。社会的な思考・判断は3.2%、技能・表現は3.7%、知識・理解は1.2%上回った。社会的な事象への関心・意欲・態度は1.4%区平均を下回った。観点別に分析すると、全体的に社会の知識や技能は定着していると考えられる。	観点別結果としては、全体的に社会の基礎的学力は定着していると分析される。しかし、内容別結果で区平均を下回る結果となっているのは工業生産に関する内容の理解が不十分な児童が見られるためであると結果から分析することが出来る。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目のうち、6項目が区平均を上回る結果となった。整数のなかま分けと合同と立体は約4%上回った。一方、体積と図形の角と円周は5%以上、区平均を下回っていた。分数の乗法・除法や、様々な図形の面積を求める問題などで誤答となり、上記のような結果となったと考えられる。	全体的に見て、どの観点も区平均と0.5~1.5%の差であることが分かった。その中では、数量や図形についての表現・処理、知識・理解が区平均を上回り、関心・意欲・態度、数学的な考え方が下回る結果となった。	どの内容・観点においても、大きく区平均を下回っているものはない。しかし、全体の中で、分数の計算、図形の面積や体積、円周を求める問題、割合を出す問題において誤答をする児童が多く見られていることから、公式や計算方法などを繰り返し復習する必要があると考えられる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目のうち7項目が区平均を上回っていた。植物の受粉は10.7%、おもりを使った実験は11.6%上回るという結果が出ている。実験器具の使い方や、用語などについての誤答があり、理解が不十分であったり、忘れてしまったりしている児童が見られる。	科学的な思考、観察・実験の技能・表現、自然事象についての知識・理解とともに、3%以上区平均を上回っている。特に、自然事象についての知識・理解の定着がよく、習得した知識をもとに、仮説を立てて結果を予測したり、実験方法を考えたりすることが出来ていると考えられる。	内容・観点ともに、大きく区平均を上回る結果となっているため、理科の基礎的・基本的知識の定着は他教科に比べよくできている。ただし、天気の状態や、ふりこの法則など、思考の基礎となる知識については繰り返し取り上げより深く定着するよう、授業で取り上げる必要がある。

現 第6学年 平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析〔悉皆〕

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を正確に取り出す力は都、区平均より正答率が上回った。一方、比較・関連付けて読み取る力と解決する力は、都平均よりは下回った。全体から読み取る力は定着しているが、読み取った内容の順序の並べ替えや比較は苦手であると考えられる。	読み取りの力は定着しているが、要点をまとめる力や文章の組み立てや、構成の仕方、物語の順序に気づく力が弱いことが分かった。大まかな話の流れを理解することにまらず、要点や、文章の構成を意識しながら読み解いたり、前後のつながりに気づかせたりする授業が必要である。	文章構成図を取り入れた授業を進める。説明文であれば各段落の要点を短くまとめ、文章構成図を作る。また、物語文では、登場人物の動き、時間の流れなど、テーマを定めて、順序立てて読み取りを進める。常に要点と順序を意識して、読み取りをさせるようにする。

社会

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を正確に取り出す力、読み取る力は共に都平均、区平均より正答率が上回っていた。解決する力は共に下回る結果となった。2、3個程度の情報の比較・関連付けはできるがそれ以上の情報が入ると、確実に分析できる児童とできない児童との差が現れることが分かった。	たくさんの資料の中から、必要とされる情報を集めて比較をしたり、関連づけてまとめたりする活動を多く取り入れる必要がある。また、関連づけた上でどのようなことが言えるか、分析したり自分なりの考えをもち、まとめたりする学習方法を取り入れていく。	歴史の学習では、教科書、資料集に加え、地図帳も取り入れて、多くの情報から必要な情報を選び、新聞にまとめる学習を進める。また、公民分野では教科書だけでなく、新聞やニュースなど資料の幅を広げ、より多くの情報源からよりよい情報を選び取り、比較・関連づけをさせる。

算数

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を正確に取り出す力、読み取る力は共に区平均を上回った。解決する力は都区平均より下回っており、本校児童が苦手とする分野であることが分かる。図形の面積のイメージをとらえるのが苦手であったり、規則性を見つけられなかったりする児童が見られる。	どのような図形についての問題であるのかイメージがとられないために、図形の問題を苦手とする児童が見られる。略図を描いてから問題を解く練習を取り入れるなどの工夫が必要である。また、さまざまな視点で図形を読み取る経験を増やし、規則性を見つける力を養いたい。	図形の問題を解く基本として、略図を描いて、図形のイメージをしっかりととらえる時間を設ける。また、図形だけでなく、計算を伴う文章題などでも、さまざまな視点から問題を読み取り、必要な情報を集めたり、多くの規則性を見つたりする練習を行う。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
取り出す力、解決する力は都、区平均と大差は見られなかった。読み取る力は都平均、区平均より8%上回った。テストの結果から、グラフを大まかに理解する力は定着しているが、縦軸と横軸を読み取り、正確に理解する力がやや低いことが分かった。	理科の学習において、グラフを正確に読み取ったり、実験の結果をグラフに書き込んだりする力はいへん重要である。まずはグラフを読み取る力をしっかりと身につけさせたい。また、実験の条件を比較し、それと実験結果とを関連づけて考察としてまとめる力も高めていきたい。	理科はもちろんのこと、他教科とも関連づけて、グラフを読み取る力を伸ばしていく。また、比較・関連づけて読み取る力を伸ばすために、てこや電流の実験では、児童が自分でさまざまな条件を試して、結果を比較したり、条件と結果を関連づけてまとめたりする活動を取り入れる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

北区立第三岩淵小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語事項では、漢字の読み書きを重点に行ってきたが、言葉のきまりについての定着が不十分であった。</li> <li>・読みや作文について、順序を意識した文の読み方や書き方を徹底させる必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短文を多く書かせることで、言葉のきまりを意識させ、助詞の正しい使い方の身につけさせる。</li> <li>・物語文は、時間や事柄の順序に着目させ、ワークシートを活用することで整理しながら読めるようにする。また、順序を表す言葉を大切に作文指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短文を書くことができるようになったら、作文用紙を活用し日常の様子を順序よく書けるようにする。</li> <li>・読書の時間を充実させ、読んだ本のあらすじや感想をワークシートにまとめ、話の内容を伝えられるようにする。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をイメージした段落分けを行ってきたが、要点に着目したり、新しい文章に適用するようなことが不十分だった。</li> <li>・スピーチなど話す機会は多く取り入れてきたが、相手の言いたいことを集中して聞き、質問や感想を言う場面が不足していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読を継続し、基本的な語彙や言い方を授業内に定着できるようにする。</li> <li>・場面の様子がイメージできるように、時・場所・登場人物どんなことをしてどう変容したか物語文の読み方を押さえる。</li> <li>・少人数での話し合いの場面を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を活用し、言葉の意味や使い方を自分で調べ、語彙の拡充を行う。</li> <li>・文章を日常的に書く場面を増やす。</li> <li>・読み聞かせやブックトーク、アニメーション等を行い、初めての文章に対応できるようにする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の練習は、単元ごとに新出漢字を学習し、毎日取り組ませている。小テストも行い、継続し、定着させる必要がある。</li> <li>物語の内容の理解を深めるため、登場人物の気持ちや様子の移り変わりを捉えられるような授業の展開や、ワークシートを工夫したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に親しませるために、読書活動をさらに充実させる。また、ノートやワークシートを活用したり、気付いたことを話し合ったりして、読解力を高める。</li> <li>漢字練習は、漢字を日常生活の中の言葉や文章の中で活用する場面を増やし、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語事項では漢字の習熟度に大きな個人差があるため、個別指導を通して、漢字や熟語への意識を高める。また、読解力を高めるために、物語のあらすじをまとめたり、登場人物の気持ちや物語の情景を想像したりする時間を十分に確保する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きを定着させるために、週1回程度の小テスト行ってきた。また、読み取りでは、自分の考えをノートに書かせ、それを互いに読み合うことで、読みが深まるようにしてきた。作文のときには辞書を使って、できるだけ漢字を使って書くようにしてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きをさらに定着させるために、漢字の意味などを理解させていく。話し合いを小グループで行う機会を多くし、話す・聞く経験を多くしていく。また、IT機器を活用し、原稿用紙の使い方を視覚を通して理解させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の意味を正確に理解させるために、一人一冊辞書を持たせる。</li> <li>・休み時間漢字教室を開き、漢字を理解させる。</li> <li>・問いに対する答え方の適切な語尾を意識させ、まとめさせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取りは出来ていても要約が苦手な児童が見られるため要約力を伸ばすための指導がさらに必要である。</li> <li>・文章の読解力を高めるため、語彙を増やす授業のさらなる工夫と改善を続けるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の読み取りの際には、段落ごとに要点をまとめて書く時間を取り入れる。また、読み取りだけでなく、感想文を書く際にも要点をまとめてから書き始めるよう指導する。</li> <li>・辞書を引く時間を積極的に授業に取り入れる。また新聞などを活用し、語彙を増やす機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の主張をまとめたり、感想文を書いたりする際には、読む相手のことを意識して、順序や構成を考えた文章を書くよう指導をする。</li> <li>・読書活動の充実を図る。本を読んだ日には、そのときの感想を書き、積極的に読書をするよう促す。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

北区立第三岩淵小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<p>・地域の様子を調べる「まちたんけん」では、興味・関心をもって学習を行えたが、学習したことを発展させ地図にまとめる等のまとめの学習に対する指導が不十分だった。</p> <p>・北区内についての学習では、地図や資料の活用について学習する時間をもう少し増やしたい。</p>	<p>・知識として覚える学習はフラッシュカード等を利用して、短い時間で継続的に行う。</p> <p>・学習したことをまとめる方法について、総合的な学習等とも関連させて、指導していく。</p> <p>・地図や資料の活用の仕方について詳しく教える。</p>	<p>・図書館やパソコンを活用し、調べ学習をする方法について学ぶ。</p> <p>・学習しまとめたことを発表する場や機会を増やす。</p> <p>・方位や北区内のことについて、折りについて意識させる。</p>
4年	<p>興味・関心をもって学習に取り組んでいるが、地図や写真からの読取りや判断、及び事象の一般化は十分でないところがある。</p> <p>体験的な学習は授業の内容に対して確実な効果が見られる。</p> <p>調べ学習や見学を今後も継続して行う。3年時の既習事項の復習も必要である。</p>	<p>今後も見学など、体験的な学習を積極的に取り入れる。</p> <p>単元や見学のまとめに新聞づくりを行い、分かったことや自分の考えをまとめ、知識を定着させ、思考・判断力を高める。</p> <p>地図帳を活用し、地図や資料の見方に慣れさせる。</p> <p>他教科と関連しながら学習内容を深めさせる。</p>	<p>身近な地域社会のことだけでなく、一般化した社会科の基本事項の習得にも力を入れ、身に付けさせる。また、授業で学習したことを基礎にして、興味をもったことを自分で詳しく調べ、発展させていくような学習を展開する。</p>
5年	<p>資料から読み取れること、また、その事実から分かることを書かせるという授業を行ってきた。しかし、社会科で使われる用語の意味を十分に理解していない中で授業を進めたため、真からの理解にならず、ただ暗記するだけということになっていたと思われる。</p>	<p>用語の意味を理解させること。資料から読み取れる事実、そこから分かることを記述させること。また、記述したことを元に話し合う時間を設定し、根拠を明らかにしながらまとめていくようにする。</p>	<p>調べ学習では、グラフや表などの資料を入れたまとめをさせる。</p> <p>まとめには、感想ではなく、自分の考えを書くようにさせる。</p>
6年	<p>・日本の産業のように、具体物や実体験が取り入れにくい内容の理解を深めることが出来ていなかった。</p> <p>・社会科の学習に必要な用語が理解できていない児童がおり、内容の理解が不十分となってしまった。</p>	<p>・図書資料やインターネットを活用し、自分自身で調べる時間を増やす。映像資料を取り入れたり、具体物を用意したりすることにより、見てさわって理解するようにさせる。</p> <p>・ワークシートを用いて、用語が理解できているか確認しながら授業を進める。</p>	<p>・調べたことをグループで共有し合い、新聞にしたり、模造紙にまとめたりする活動を行う。</p> <p>・周りの人により伝わりやすい情報を取捨選択したり、相手に分かりやすく説明する力を身につけさせるために発表形式を取り入れる。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立第三岩淵小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足し算や引き算では、計算練習を多くしてきたが、問題解決の際に、十分に時間を確保して考えをまとめさせることが少なかった。</li> <li>・生活の場面と関連させて、児童の興味・関心を喚起し、学習事項を日常に生かせるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題提示にの際に、より生活に関連したことを取り上げる。また、個や少人数の話し合いの場をもち、自分の考えを整理し、表現する機会を増やす。</li> <li>・文章題を作る活動を増やし、数式の持つ意味を考えられるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意味が取られられない時には、具体物などを使用し、視覚的にとらえやすいようにする。</li> <li>・机間指導を通して、児童につまずきを把握し、個別指導や補充プリントで定着させる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算等は復習ができていますが、図形の問題は、日頃復習する機会が少なかった。</li> <li>・具体物の操作の時間が少なかった。</li> <li>・文章問題を作ることは授業の中で取り入れていたが、結果を見るともう少し時間を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し前の学習を復習として取り入れる。</li> <li>・図形などでは具体物を取り入れ、たくさん操作させ、概念を身に付けさせていく。</li> <li>・問題作りを日常的に授業の中や宿題に取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形や立体では、ICTの活用や具体物の提示により、読み取る内容を増やす。</li> <li>・学習したことを自分の言葉でノートにまとめさせる。</li> <li>・計算の仕方を説明する機会を多くする。計算の意味を理解させるようにする。</li> </ul>
4年	<p>計算力を付けさせるために、多くの計算問題に繰り返し取り組ませている成果が出てきた。一方、既習事項を使って見直しをもち、筋道を立てて考え、問題を解決する力を高めて取り組ませる工夫が必要である。</p>	<p>立体図形や平面図形は、具体物を操作する機会を多くもたせたり、時間を十分に確保したりして、理解を深めさせる。少人数指導をより効果的に生かし、各自の学習段階に合わせ、じっくり考えさせる学習を進める。</p>	<p>計算練習を重ね、さらに伸ばしたい。また、各種の演算が含まれる問題に取り組ませ、適切な演算決定ができるようにする。個の能力に合った問題の量や難易度を考えをて取り組ませる。日常生活や他教科の中でも数学的事項を活用する場面を設定し、関心・意欲や問題解決能力をさらに高める。</p>
5年	<p>学級を習熟度に分け、少人数で授業を行ってきたので、児童の個に応じた学習が行われてきた。また、発言の機会が多かったことも、定着度が高くなった一因と思われる。ただ、計算の習熟に取り組む時間は少なかった。</p>	<p>計算に取り組んでいるときの個の見取りをさらにきめ細かく行っていく。また、家庭学習で以前に学習した計算に取り組ませるなどし、習熟を深めるようにしていく。</p>	<p>習熟度に応じて、基礎的な問題に多く取り組ませたり、発展的なものを扱ったりするなど、個に応じた学習をこれからも行っていく。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の計算や、割合の求め方などの理解度が低いことから、反復練習の時間を増やす必要があった。</li> <li>・円の面積、図形の体積など図形のイメージをとらえる授業の展開を工夫する必要があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一単元ごとの授業計画の立て方をもう一度見直す。全体の学習で終末の前の段階で反復練習をする時間を取る。</li> <li>・作図をしたり、立体を作ったりする活動を取り入れ、図形の感覚をとらえる力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数と小数の混合した問題など、既習の内容を組み合わせた計算問題などを継続的に取り入れる。</li> <li>・面積や体積などを求める際には、なぜその公式で答えが求められるのか考えたり、より分かりやすい求め方を追求したりして、発表する時間を設ける。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立第三岩淵小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫や植物を育てる機会を多く作り、それらへの関心や興味は高い。観察は多くしているが、じっくりと視点を絞った観察が行えなかった。</li> <li>育てている昆虫や植物以外の自然について、調べる機会が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も飼育や栽培の活動を継続する。</li> <li>授業のポイントをはっきりさせて、観察時に児童にしっかりとした視点を持たせる。</li> <li>調べ学習のやり方やノートのとめ方を授業で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して興味・関心を持ち、追求する活動を取り入れる。また、それらが発表できる場を作る。</li> <li>学習したことを整理し、学んだことを生活との関わりの中で見直し、実感を伴った理解が得られるように日常的に自然に関する話をする。</li> </ul>
4年	<p>児童は観察や実験に対する興味・関心が高く、楽しんで学習している。しかし、観察や実験の結果から考察し、きまりを見つけたり、他に応用して考えたりすることは、まだ十分でない。予想を立て、方法を考えて実践し、結果を考察する活動をより多く経験させたい。また昨年度までの既習事項の復習が必要である。</p>	<p>実験をする際には、条件を確認し、予想・実験・結果・結論の段階を自分で進め、自分の言葉で結論を導き出させる。観察では、視点を明確にし、それに従って観察し、結論をまとめさせる。継続的に行うことで、前回と比較し、変化や特徴に気付かせるようにする。</p>	<p>実験においては机間指導を十分に行い、安全の確保と実験器具の使い方を十分に習得させる。また、話し合いから要点に気付かせ、理解を深めたり、関心を高めたりする。既習事項を応用して日常生活の中から新たな課題を見つけたり、生活に応用したりする力を伸ばす。</p>
5年	<p>課題を解決するために、どのような方法で調べていけばよいのかということから考えさせる授業を行ってきた。その結果、一部の児童は実験・観察する目的を明確にして活動することができたが、全員にその意識を持たせることは不十分であった。</p>	<p>話し合いの前に自分の考えをもたせたり、話し合い後に、考えを再度書かせたりなどして、個々の思考力を高めていく。また、実験・観察の時間を確保し、実感を伴った理解ができるようにしていく。</p>	<p>理科支援員との連携を図り、実験道具をできるだけ用意し、全員が作業できるようにしていき、技能を高めていく。また、日常生活の中から課題を見付け、それを観察・実験を通して、解決していく学習の仕方を身に付けさせていく。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>法則や規則性など、基礎的な知識が定着しているか確認しながら授業を進めるべきだった。</li> <li>実験において、仮説を立てて検証をする機会は多く設けることができたが条件比較をさせる機会が少なかった。</li> <li>実験器具を使用する機会を増やす必要があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科ノートを活用し、授業の理解度を確認する。また、ミニテストを行い、理解を深めながら授業を進める。</li> <li>実験の際には、いくつかの条件を用意し、条件の比較をしてから実験を行う。</li> <li>理科室での授業を増やし、実験器具に多く触れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天体や物理の内容に関しては、実際に観察をして法則を見つけさせる。また、条件が変わった場合にはどうなるか考え発表させる。</li> <li>仮説の段階で、結果を求めるためにはどの器具や薬品を使い、どう実験したらよいか考える時間を設ける。</li> </ul>